

# エコアクション21 環境活動レポート



対象期間

平成26年8月～平成27年7月

**株式会社 柏原鐵工所**

平成27年12月作成

# 目 次

1	社長挨拶	1
2	事業活動の概要	2
	会社概要	
	組織図	
	活動体制	
3	環境方針	4
4	活動指針	4
5	活動目標	5
6	環境活動計画	7
7	今年度の目標、実績、評価	8
8	その他の環境活動	9
	5年間を振り返って	
9	今年度の活動評価	13
10	該当環境関連法規、訴訟の有無	14
11	地震、火災等による緊急時対応マニュアル	15
12	代表者による評価	16
13	来年度に向けて	17

## 社長の挨拶

平成27年8月、新年度となりまして創業以来長らく代表取締役社長に就任していましたが柏原明包に代わり、私・正明が常務取締役より代表取締役社長に就任することになりました。今般の経済状況を考えると不安なことばかりではありますが、いずれはやらなければならないことであり、清水の舞台から飛び降りるような気持ちで覚悟を決めました。明包氏は会長職に就いて頂き今後もアドバイザーとして御指導していただこうと思っています。

いまや世界の状況が即日本の経済に影響を与えるようになっていきます。クリミア半島のロシアへの併合、ギリシャ危機、中国経済の低迷、難民・移民の欧州への流入、直近の1年を見ても日本には直接間接問わず影響を及ぼすことばかりです。

又、日本の建築業界も色々な問題が噴出しています。これらの問題も一朝一夕で片付くような物でもありません。このような状況での社長就任ではございますが、皆様の御協力や御指導御支援を頂き、社業ならびに当業界の発展に微力ながら精進していこうと思います。

平成27年12月

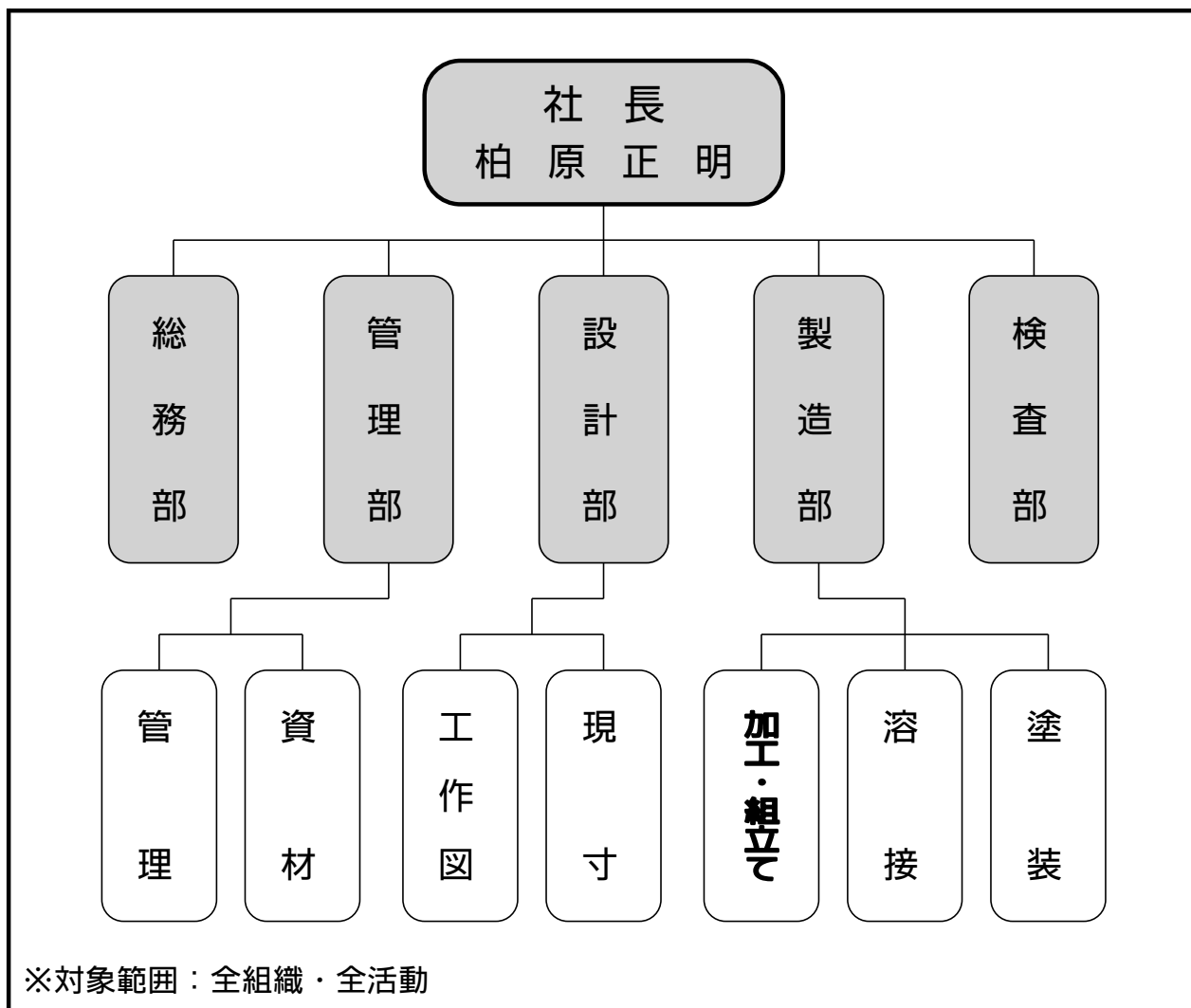
株式会社 柏原鐵工所  
代表取締役社長 柏原正明

# 事業活動の概要

## 会社概要

事業所名 代表者名	株式会社 柏原鐵工所 代表取締役社長 柏原正明															
住所・連絡先	〒425-0045 静岡県焼津市祢宜島 124-2 電話 054-624-5803 FAX 054-623-0046 web <a href="http://e-kashiwa.com/">http://e-kashiwa.com/</a> e-mail <a href="mailto:info@e-kashiwa.com">info@e-kashiwa.com</a>															
建設業許可	建築工事業・鋼構造物工事業 静岡県知事許可（般-23）第2124号 大臣認定 全構協Hグレード 認定番号 TFB H-120255															
事業内容	一般建築鉄骨・鉄骨耐震ブレース・鉄骨階段・鉄骨工事一式															
事業の規模	従業員数 27名（正社員のみ：平成27年12月 現在） 資本金 800万円 売上高 約8億6,100万円（平成26年度 実績） 延べ床面積 2,770.3㎡															
主要取引先 （敬称略 50音順）	<table border="0"> <tr> <td>臼幸産業株式会社</td> <td>株式会社 橋本組</td> </tr> <tr> <td>木下建設工業株式会社</td> <td>五光建設株式会社</td> </tr> <tr> <td>近藤建設工業株式会社</td> <td>清水建設株式会社</td> </tr> <tr> <td>瀬戸建設株式会社</td> <td>第一建設株式会社</td> </tr> <tr> <td>東亜建設工業株式会社</td> <td>東急建設株式会社</td> </tr> <tr> <td>戸田建設株式会社</td> <td>名工建設株式会社</td> </tr> <tr> <td>山本建設株式会社</td> <td></td> </tr> </table>		臼幸産業株式会社	株式会社 橋本組	木下建設工業株式会社	五光建設株式会社	近藤建設工業株式会社	清水建設株式会社	瀬戸建設株式会社	第一建設株式会社	東亜建設工業株式会社	東急建設株式会社	戸田建設株式会社	名工建設株式会社	山本建設株式会社	
臼幸産業株式会社	株式会社 橋本組															
木下建設工業株式会社	五光建設株式会社															
近藤建設工業株式会社	清水建設株式会社															
瀬戸建設株式会社	第一建設株式会社															
東亜建設工業株式会社	東急建設株式会社															
戸田建設株式会社	名工建設株式会社															
山本建設株式会社																
エコアクション 21	認証・登録番号 0004784 認証・登録日 平成22年3月29日 有効期間 平成28年3月28日 環境管理責任者 中島初江 実務担当者 中島重男 連絡先 <a href="mailto:k.kajiya@ka.tnc.ne.jp">k.kajiya@ka.tnc.ne.jp</a>	 <b>エコアクション21</b> 認証番号0004784														

## 組織図



## 環境管理における活動体制

代 表 者	柏原正明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境活動の目標及び計画の承認</li> <li>・環境活動全体の評価と見直し</li> <li>・環境方針の策定及び改訂</li> <li>・経営資源の準備</li> </ul>	連絡担当者
環境管理責任者	中島初江	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境活動の計画立案及び実施と経営者への報告</li> <li>・環境活動の自己チェックの実施</li> <li>・環境方針及び活動計画の見直し</li> </ul>	
実務担当者	中島重男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理責任者の補佐</li> <li>・管理データの収集及び比較整理</li> <li>・『環境活動レポート』の作成</li> </ul>	

# 環境方針

株式会社柏原鐵工所は、建設事業を推進していくに当たり、地域との関わりを大切にし、環境に負担をかけないように配慮した、ごみ削減及び再利用・再資源化また、化学物質の低減を最大限に実現できるよう、持続可能な循環型社会づくりを目指します。

## 活動指針

1	事業活動において、省資源化・省エネルギーを推進し、二酸化炭素排出量の削減・水使用量の削減を目指す。
2	事業活動において、現場で発生する産業廃棄物の排出削減を目指すとともに、廃棄物の収集・分別を徹底して行い、再資源化できるようにする。
3	有害化学物質の含有量が少ない塗料の推奨に努める。
4	機械設備及び備品購入の際、グリーン購入の推奨に努める。
5	5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動を徹底する。
6	上記の活動を継続させるため、数値目標を設定して行い、査定・評価し、日々改善に努める。
7	事業活動において、建築基準法及びその他の関係法令を遵守し、環境保全に努める。
8	当社は上記活動を実施するに当たり、本方針を従業員全員に周知徹底します。

※平成26年10月 ㈱柏原鐵工所 代表取締役 柏原正明

代表者  
印

# 活動目標

弊社では、平成21年度を環境活動元年とし、当初はその前年である20年度を基準年として活動してきました。

しかし、近年の社会状況の変化に伴い弊社としても変革を余儀なくされ外注に頼っていたものを改め自社で製作することが多くなってきました。そのため20年度を基準としたデータとは比較出来なくなってきました。

そこで基準年を平成22年度に変更することとし、新たな基準値を設定しました。

## 仕事量を同等にしたうえで、毎年マイナス1%を目標値とする。

### 【基準値・目標値の設定方法】

①各年度の受注物件及び物件数により、目標値に対して実測値が大きく変動してしまうので単純に比較できない。そのため仕事量に直接関係のある鋼材の購入量を基準とし、その増減の割合を基準年の各データに掛け合わせ比例させます。

年度	鋼材購入量	割合	基準値
平成22年度	3,077.8 t	100.0 %	基準年の各データ
平成24年度	4,757.2 t	154.6 %	基準年のデータに54.6%増加した数字が基準値となる
平成25年度	5,264.0 t	171.0 %	基準年のデータに71.0%増加した数字が基準値となる
平成26年度	3,764.2 t	122.3 %	基準年のデータに22.3%増加した数字が基準値となる

②上記表のとおり、基準年を100%と考えると今年（平成26年度）の鋼材購入量は22.3%増加している。よって基準年の各データの22.3%増の数値が仕事量同等数値（以下基準値という）となります。

$$\text{基準年の各データの数値} \times 122.3 \% = \text{基準値}$$

③上記計算を行うと各データ数値は基準年と同じ水準となり、比較出来る“基準値”となる。その基準値から4%削減した数値が平成26年度の《目標値》になります。

$$\text{基準年の各データの基準値} \times 96.0 \% = \text{目標値}$$

④これによって、平成26年度の各項目の《目標値》が出て【実測値】と比較出来るようになります。

この方程式を当てはめると平成26年度の各項目の目標値は、次項の表となります。

		平成22年度 (2010年)	平成24年度 (2012年)		平成25年度 (2013)		平成26年度 (2014)		平成 27年度 (2015)
		基準年	基準値 基準年 × 154.6%	目標値 基準値 × 98%	基準値 基準年 × 171.0%	目標値 基準値 × 97%	基準値 基準年 × 122.3%	目標値 基準値 × 96%	目標値 基準値 × 95%
電力使用量 (KWh)		228,283	352,852	345,795	390,364	378,653	279,200	268,033	- 5%
化石 燃料	ガソリン (L)	666.22	1,029.76	1,009.17	1,139.24	1,105.06	814.82	782.22	- 5%
	軽油 (L)	4,432.94	6,851.89	6,714.85	7,580.33	7,352.92	5,421.69	5,204.82	- 5%
二酸化炭素 排出量 (kg - CO <sup>2</sup> )		157,392.01	243,265	238,400	269,140	261,066	192,498	184,798	- 5%
コピー用紙 使用量 (t)		1.00908	1.56	1.53	1.73	1.67	1.23	1.18	- 5%
産業廃棄物 排出量 (t)		389.52	602.07	590.03	666.08	646.10	476.40	457.34	- 5%
水使用量 (m <sup>3</sup> )		662	1,023	1,003	1,132	1,098	810	777	- 5%
有害化学物質 含有量 (t)		1.56162	2.41	2.37	2.67	2.59	1.91	1.83	- 5%
グリーン購入 (件)		-	-	2件	-	3件	-	4件	5件

※平成27年度の目標値はその年の鋼材購入量により変動します。

※購入電力のCO<sup>2</sup>排出係数 0.474kg-CO<sup>2</sup>/KWH

#### 目標値について

今までの目標値の出し方は、その年度の仕事量によって大きく左右され単純に比較するのは難しいと判断しました。

この目標値の出し方は、鋼材購入量の増減が仕事量に一番影響されると考え、この増減の割合を他の項目にも反映させて比較しようというものです。この目標値の方が、今までの目標値より正確に比較出来るものと考えました。

来年度の目標値を《-5%》としていますが、社会情勢の変化を考え平成22年を基準にするには無理があるように思われます。社長交代の年でもありますので、来年度は“基準年”を変更しようと考えています。

# 環境活動計画 (平成26年度)

取り組み事項	取り組み内容 (詳細)
仕事を円滑に効率よくするための取り組み	5Sの徹底 (整理・整頓・清潔・清掃・躰)
	機械設備の定期点検・整備の徹底
二酸化炭素排出量削減に関する取り組み	照明器具、その他電化製品の不必要時の消灯・消電
	空調設備の温度設定の徹底 (夏26℃以上/冬22℃以下)
	クールビズ・ウォームビズによる服装での調節
	照明器具・空調設備の定期的な清掃
	計画的な輸送・運搬の実現
	自動車のアイドリングストップの励行、急発進・急加速の禁止
	自動車内エアコンの温度設定の見直し
自動車の定期点検・整備の励行	
一般及び産業廃棄物排出量の削減に関する取り組み	廃棄物を出さないために購入時の再検討
	コピー用紙の両面使用・使用済み紙の両面使用
	書類等の電子化推進
	一般及び産業廃棄物の分別の徹底
	3Rの徹底 Reduce (ゴミ削減) Reuse (再利用) Recycle (再資源化)
	材料・消耗部品等、無駄の無い使い方を周知徹底
	材料在庫の管理
有害化学物質削減に関する取り組み	顧客に対して有害物質の含有量が少ない、または有害物質が含まれていない塗料を提案する
水道水削減の取り組み	節水に努める
	止水の確認、漏水検査
その他 環境活動の取り組み	グリーン購入
	防災訓練の実施
	地域社会における緑化運動の推進



# 今年度の目標・実績・評価

		平成 22 年度 (2010 年)	平成 26 年度 (2014 年)		平成 26 年度 (2014 年)	評 価
		基準年	基準値 基準年 × 122.3%	目標値 基準値 × 96%	実測値 前年度実測値	
電力使用量 (KWh)		228,283	279,200.61	268,032.5856	186,847 215,753	○
化石 燃料	ガソリン (L)	666.22	814.818	782.225	3,442.00 3,845.03	×
	軽油 (L)	4,432.94	5,421.690	5,204.822	9,505.49 11,077.85	×
二酸化炭素排出量 (kg - CO <sup>2</sup> )		157,392.01	192,497.668	184,797.762	164,206.44 190,175.19	○
コピー用紙使用量 (t)		1.00908	1.234	1.185	0.831 0.721	○
産業廃棄物排出量 (t)		389.52	476.401	457.345	236.500 172.559	○
水使用量 (m <sup>3</sup> )		662	809.656	777.270	478 566	○
有害化学物質含有量 (t)		1.56162	1.910	1.834	1.037 0.807	○
グリーン購入 (件)		-	-	4 件	3 件 3 件	△

※購入電力のCO<sup>2</sup>排出係数 0.474kg-CO<sup>2</sup>/KWH

※平成 24 年度中に車両を買い換えました。

商用車バン (ディゼル車) ⇒ 商用車バン (ガソリン車)

2tトラック (ディゼル車) ⇒ 10tトラック (ディゼル車)

※平成 26 年度に新規にトラックを購入しました。

新規 ⇒ 2tトラック (ディゼル車)

評価としては・・・

前年度とほとんど同じとなった。評価は良い方向になっていると思う。1つ違ふとすればグリーン購入の件数ですがこれは中々増やすことが難しいように思います。

個別に見ていくと、電力使用量は目標値である268,000kw/hよりも遥かに低い187,000kw/hであり、前年度実測値よりも低くなっているということであり、電球の交換期にLED電球に換えている事が工場全体に広がり、照明機器や空調の節電対策等が浸透してきたからだと思う。他にも二酸化炭素排出量や水使用量が前年度よりも少なくなっていることは良い傾向である。

少し気になることがあるのは、前年度の増加率が171%であるのに対して、今年度は大幅に下がった122%であることを考えると全ての実測値が前年度を下回って良いと思われるが、コピー用紙使用量や産廃排出量、有害化学物質含有量が目標値よりは下回っているものの前年度の実測値を超えているのはどういうことか。産廃排出量が増えた原因として考えられることは、今まで「いつか使うだろう」と思って大量の在庫を抱えていた鋼材の処分を行ったためではないかと思う。有害物質については、“トルエン”が前年度より倍近くに増えておりトルエンの含有量が多い〔ナトコ(株)ラッカーシンナー洗浄用〕の使用量が多かったためと思われる。

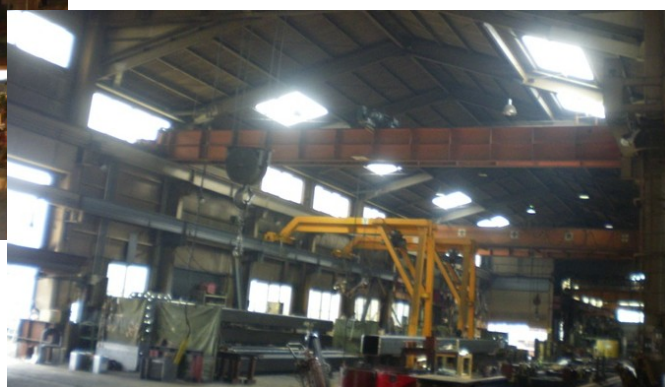
ガソリンと軽油の使用量が目標値を達成できなかったのは、基準年と本年度の車両構成が違うためである。実測値だけで見ると前年度より下がっていることは良い傾向である。

グリーン購入は、コピー紙や印刷機のトナーやインクの再生品の購入、LED電球の使用だけでなく、事務用品や工場内の使用機器のグリーンな製品を選択するようにならなければならない。

## その他の環境活動

本年度は目立った活動が出来なかったが、エコの活動は工場内の採光について考えてみました。工場内の天井の一部を透明の板に取り換えて太陽の光を取り入れて作業員の手元を明るくして作業効率を上げ、電気代の節約に繋がりたいと思います。

工場北側入り口



▲北側の天井は広いため、屋根の頂点より両側に透明の板を設置して光を取り入れた。  
右写真▶)

工場南側入り口

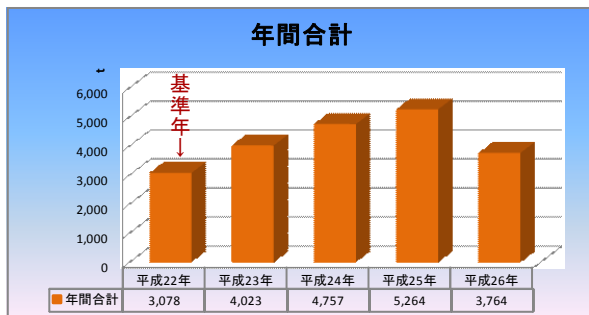


▲南側入り口は片側のみの設置であるが明るさは確保されているのではないかと思います。  
右写真▶)

# 5年間を振り返って

ea21に登録するために各種の統計を取り始めてから8年近く経ちますが、この間にはリーマンショックあり、東北大震災あり、消費税5%から8%への増税あり、建設会社のデータ偽装問題あり、で“山あり谷あり”でした。地球環境においても、ゲリラ豪雨、台風の発生の異常性、日本の平均気温や海水温度の上昇等異常気象ばかりです。持続可能な循環型社会を目指して、これからの未来のためにも直近の5年間の実態を検証して少しでも今後役に立てたいと思います。

鉄骨鋼材購入記録

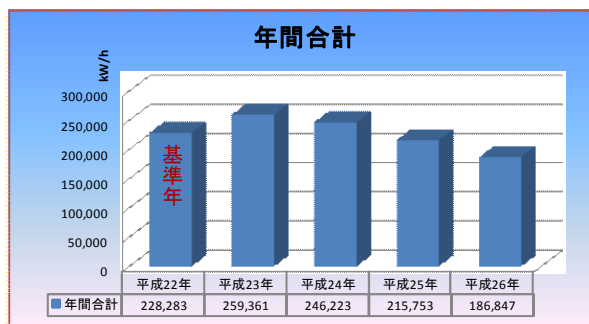


鉄骨鋼材の購入トン数はこのレポートの全ての基準になってくるので、この数字の増減が大きく影響を及ぼすことになります。

基準年である平成22年は3,764tで経年するごとに31%増、55%増、71%増となっている。これは仕事量が増えているという事で喜ばしいことです。

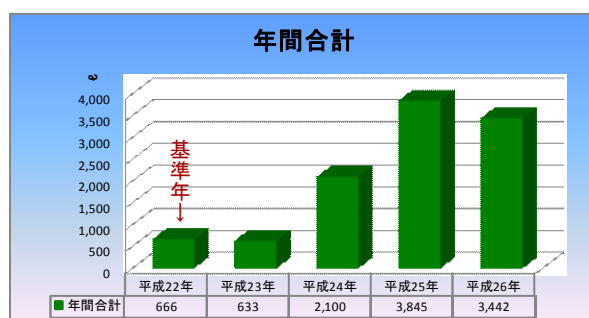
しかし、平成26年度は22%増の3,047tと減少しているがこれは一部の施工主より材料が支給される物件があったため自社からの発注が無くなったためと思われる。

電気使用量

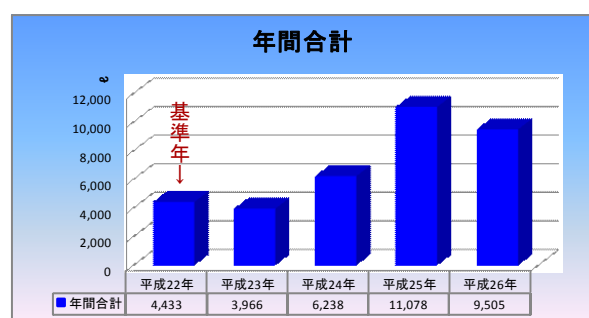


電気使用量は基準年の次の年が14%増となっているがそれから徐々に減少していき、平成26年は基準年の18%減となっている。これはLED電球とか空調などの節電対策が進んでいるものと思われる。

ガソリン使用量

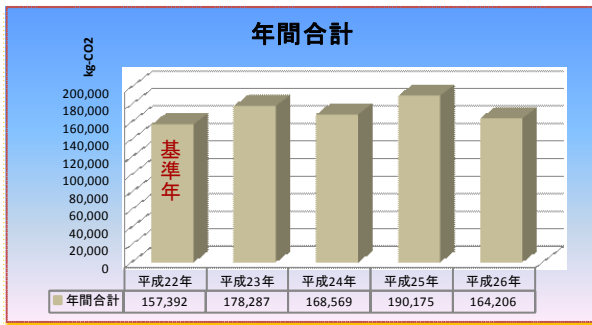


軽油使用量



化石燃料使用量は大きな増加がみられる。これは平成22年度の車両構成が5年の間に変わっているためである。営業車がディーゼル車からガソリン車に代わり、トラックでは10トン車が増え計3台になったためである。それにしてもガソリン使用量は基準年に比べ5倍以上になり、軽油使用量も2倍以上になっている。この数字を下げていくことが今後の重要課題となり、エコドライブの一層の推進を進めていかなければなりません。

## 二酸化炭素排出量

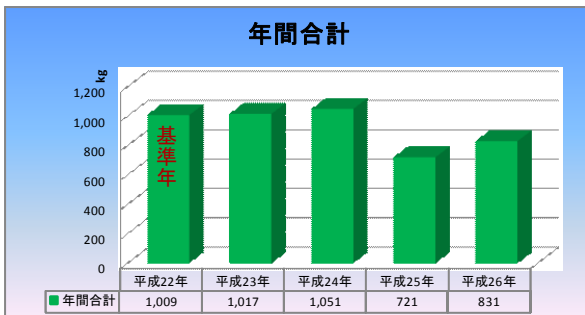


二酸化炭素排出量の数字の元になっているのは、電気使用量・ガソリン軽油使用量等である。電気の使用量が減少したがガソリン軽油使用量が増えたので相殺されたので、基準年と変化の少ない数字となっている。

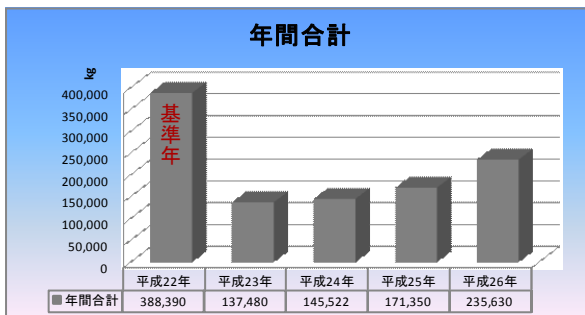
コピー用紙使用量は基準年と横ばいだったが、平成25年は29%減の721kg、平成26年が18%減の831kgとなっている。これは施工主から送ってくる設計図面や出来あがった施工図面等を送るとき、紙ではなく電子データでやり取りすることが多くなったためであろう。今後も電子データでのやり取りの傾向は続くものと思われる。

ここで注意しなければならないのはインターネットのセキュリティである。コンピュータのセキュリティ対策に最大限コストを賭けなければならない時代になったのである。

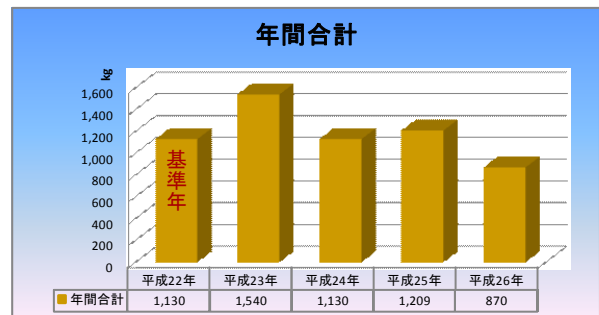
## コピー用紙使用量



## 鉄くず排出量



## ダンボール排出量

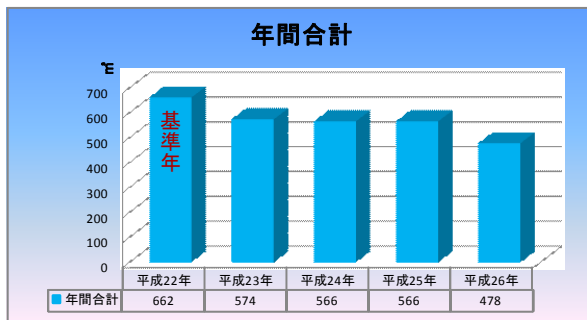


産業廃棄物である鉄くずの排出量が基準年に比べ劇的に減っているのは大変喜ばしいことである、というのは疑問で、ここには出ていないが基準年より前の数年も100トン台で推移している。と言う事は基準年である平成22年の388トンが如何に突出して多いことが分かる。平成26年も236トンと比較的に多いと言えるだろう。過去の在庫を処分したといっても多すぎる在庫である。無駄が多すぎる、これは大いに改善すべき点である。作成途中で施工主による設計変更を余儀なくされて無駄が出る事もあるだろうが、大半は施工図面のミスとか製作者の勘違いとかで無駄が出て余計な経費が掛かり利益の減少にも繋がってくる。もっと施工主及び施工図面製作者・工場製作者の間で話し合っって鋼材の発注ミス、製作ミスを無くすようにして欲しい。

ダンボールはボルト等の入っている箱が廃棄物となって捨てられるものがほとんどである。これはもっと増えてほしいです。



## 水 使 用 量



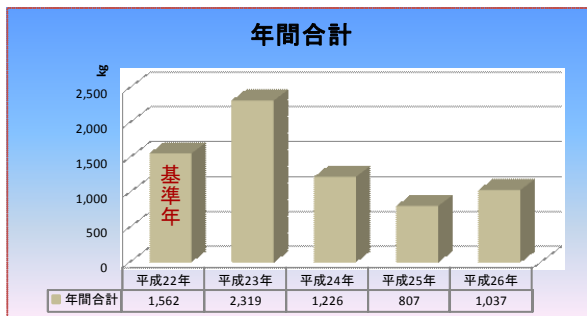
水使用量については、ここに出ていない基準年の前の数年から徐々に減少してきている。

はっきりした原因は分からないが従業員の節水意識が浸透してきていると思います。

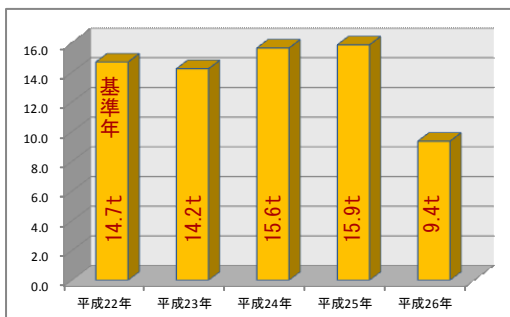
有害化学物質とは、製品出荷時の鋼材に塗るペンキに含まれている物質の中で有害な物質がどの程度含まれているのかを調べている。

鉄骨鋼材の購入量 (P.10) が基準年に比べ31%増、55%増、71%増と増加しているのにペンキの使用量 (下図) は同じ変化をしていない。又、有害化学物質もペンキの使用量と違う変化をしている。有害化学物質が平成24年以降減少しているのは、施工主側に有害化学物質含有量の少ないペンキの使用を推奨しているからだと思う。

## 有害化学物質排出量



## ペ ン キ 使 用 量



総括すると、この5年間の ea21 の活動は及第点を与えてもよい成果を上げているのではないかと思う。鉄骨鋼材購入量が増えているのに電気使用量や二酸化炭素排出量、コピー用紙使用量、水使用量、有害化学物質排出量はそれほど増加していないし、減っているものもある。化石燃料が増えているのは車両構成がこの5年間で変わったのが原因であり已むを得ない事である。

これらの事を踏まえて考えると、今までの活動を継承していけばよいのかなあとと思います。今後は長らく出来ていない防災訓練をやらなければ・・・と思うのですが忙しくてそこまでの余裕ができないというのが実態です。これに加えて地域貢献ができるようにしたいです。現在、津波対策として地域の皆様に避難場所を工場の4階に、非常食の置き場所を提供していますが、この他に出来るものとして道端の緑化とか清掃活動のような事をやっていければなあと思います。

# 今年度の活動評価 (平成26年度)

取り組み事項	取り組み内容(詳細)	評価	次年度
仕事を円滑に効率よくするための取り組み	5Sの徹底(整理・整頓・清潔・清掃・躰)	△	継続
	機械設備の定期点検・整備の徹底	△	継続
二酸化炭素排出量削減に関する取り組み	照明器具、その他電化製品の不必要時の消灯・消電	○	継続
	空調設備の温度設定の徹底(夏26℃以上/冬22℃以下)	△	継続
	クールビズ・ウォームビズによる服装での調節	○	継続
	照明器具・空調設備の定期的な清掃	△	継続
	計画的な輸送・運搬の実現	○	継続
	自動車のアイドリングストップの励行、急発進・急加速の禁止	○	継続
	自動車内エアコンの温度設定の見直し	○	継続
	自動車の定期点検・整備の励行	○	継続
一般及び産業廃棄物排出量の削減に関する取り組み	廃棄物を出さないために購入時の再検討	○	継続
	コピー用紙の両面使用・使用済み紙の両面使用	○	継続
	書類等の電子化推進	○	継続
	一般及び産業廃棄物の分別の徹底	○	継続
	3Rの徹底 Reduce(ゴミ削減) Reuse(再利用) Recycle(再資源化)	○	継続
	材料・消耗部品等、無駄の無い使い方を周知徹底	△	継続
	材料在庫の管理	○	継続
有害化学物質削減に関する取り組み	顧客に対して有害物質の含有量が少ない、または有害物質が含まれていない塗料を提案する	○	継続
水道水削減の取り組み	節水に努める	○	継続
	止水の確認、漏水検査	○	継続
その他 環境活動の取り組み	グリーン購入	△	継続
	防災訓練の実施	×	継続
	地域社会における緑化運動の推進	×	継続

# 該当環境関連法規、訴訟の有無

法律名	該当する要求	該当整備・項目	届け出先・報告先	評価項目	評価
建築基準法	・建築基準の遵守 ・建築工事業の許可	・設計・施工 ・工事業 ・工場	静岡県 国土交通省	許可期限	○
				認定期限	○
廃棄物処理法	《一般廃棄物》 ・一般廃棄物収集業者許可確認	・紙くず ・木くず その他	なし	許可業者	○
	《産業廃棄物》 ・産業廃棄物委託業者との契約 ・処理基準の遵守 ・保管基準の遵守 60cm×60cm以上の表示 飛散、浸透防止、衛生管理 マニフェストの集計、報告	・廃油 ・汚泥 ・廃ブラ	マニフェストの期限内返却ない場合 … 知事へ報告  前年度の交付状況 … 知事へ報告	契約書許可書  マニフェスト管理	○  ○
静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例	・管理責任者の設置 ・処理の委託先の実地確認とその記録の保存	・廃油 ・汚泥 ・廃ブラ その他	不適正な処理が行われた場合 … 知事へ報告	委託業者	○
騒音規制法	・特定施設への届け出 ・規制基準の遵守	・コンプレッサー ・油圧機・切断機	焼津市	新設・変更	○
				基準の遵守	○
振動規制法	・特定施設への届け出 ・規制基準の遵守	・コンプレッサー ・油圧機・切断機	焼津市	新設・変更	○
				基準の遵守	○
浄化槽法	・浄化槽の設置 ・変更の届け出 ・法定点検	・分離式 バッキ方式 20人	新設・変更の場合 ・知事へ届け出	新設・変更	○
				点検 1回/3ヶ月	○
消防法	・指定可燃物の届け出 (指定数量の1/5以上)	・塗料 2,000kg	焼津消防署	新規・変更	○
高圧ガス保安法	・アセチレンガス 0.2メガパスカル以上 ・酸素ガス 1メガパスカル以上江 ・液化炭酸ガス	・アセチレンガス	・知事へ届け出	許可期限	○
				保安基準	○
建設リサイクル法	・建設副産物 鉄、コンクリート 他	・対象建設工事 ・解体建設工事	… 知事へ報告	マニフェスト管理	○
PRTR法	・有害化学物質管理	・キシレン、トルエン、鉛	静岡県省庁	適用業種外	-
フロン排出抑制法	・冷凍空調機器 全ての第一種特定機器が対象	・自社に於いて 簡易点検実施 (3ヶ月に1度以上)	企業・法人の管理者が確認		○

遵守評価日：平成27年10月31日

過去3年間、当事業所における業務上関係のある法令及び条例違反、地域住民利害関係者からの訴訟及び苦情はありません。

# 地震、火災等による緊急時対応マニュアル

1. 適用範囲	鉄工場敷地内（工場、事務所、資材置き場 他）
2. 目的	予防処置、発生時の処置を定め、汚染拡大を防止する。
3. 予防措置	<p>①工場内及び作業中は“禁煙”とする。（休憩時間に指定場所でのみ喫煙）</p> <p>②指定場所には消火器を設置し、法定点検を厳守する。</p> <p>③工場内等で火気を使用する場合は周りを片付け、燃えやすい物がないか安全を確かめてから実施すること。</p> <p>④重量物を保管する場合はあまり高く積み上げない事。 やむを得ず積み上げるときは、荷崩れしないような対策を講じておく事。</p> <p>⑤5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の徹底。</p>
4. 緊急時の対応 （地震・火災）	<p>地震、火災等が発生した場合、人命を第一に行動すること。</p> <p>①緊急時、人が倒れていた場合は安全な場所まで移動させる。</p> <p>②意識の有無を確認。無かった場合は声をかける、肩をたたく等の刺激を与えて、反応を確認（体をゆすったり、動かしたりしない）。</p> <p>③大声で周りの人に応援要請し、消防に通報、気道の確保、人工呼吸を行う。</p> <p>④外出血、特に大出血を認めた場合は直ちに止血の処置を行う。</p>
《地震の場合》	<p>①激震等の緊急事態が発生したら、安全な場所への一次避難を実施する。</p> <p>②地震がおさまったら主電源を切ること。二次避難の実施。</p> <p>③安全なことを確認の後、保管品の状態確認。</p> <p>④保管品の飛散状態を確認し、液体物での漏れ等で水質や土壌汚染が考えられる場合は大声で周りの人に応援要請する。</p> <p>⑤液体物での漏れ等が確認されれば、直ちにウエス等で周囲を囲い、流失拡大の防止に努める。</p> <p>⑥安全管理責任者に報告し、その後の処置を仰ぐ。</p> <p>⑦津波警報が発令された場合は、大事なものだけをもち、4階現寸場へ全員避難する。</p>
《火災の場合》	<p>①火災等の緊急事態が発生したら大声で周りの人に通報。その後構内放送で応援要請する。危険と判断したら即座に非難する。</p> <p>②応援要請を受けたものは直ちに消防へ連絡し、消火活動にあたる。</p> <p>③対応不可能と判断した場合は、直ちに消防へ連絡し、消火活動を続行する。危険と感じたら即座に避難を開始する。</p> <p>④消防管理者に報告し、その後の処置を仰ぐ。</p>
5. 緊急連絡網	緊急時の緊急連絡網は別紙あり



# 代表者による評価

地球温暖化の影響なのか近年の気候は異常気象になっています。このまま何の対策も取らないで行くと今世紀中に海面の水位は82cm上昇すると予測されています。これにより海に沈む国、国土が大幅に狭くなる国が出てきます。今すぐにでも温暖化対策を取らないといけません。

日本では今、原子力発電所を稼働させようとしています。これによって火力発電の割合を減らし二酸化炭素の排出量を減らせるという事です。加えて発電コストが下がり電力料金も下がるという事です。核のゴミをどうするのかという問題が解決していません。それに核のゴミを処理するのに莫大な費用が掛かります。これでは本末転倒です。これからは地球にやさしい再生可能な自然エネルギーの開発をしていかなければなりません。我々国民や企業は持続可能な社会を目指してエコロジーな社会活動や企業活動をしていかなければと思います。

今年度の弊社のエコ活動は、昨年と同じような結果になりました。8頁の表のように9項目中6項目が目標値を下回って、この6項目中3項目が前年度より下がっています。これは良い傾向でありこの活動を続けていきたいです。達成できなかったガソリンと軽油の使用量は、昨年よりも下がりましたがまだまだ多いのでエコドライブ運転を進めていかなければいけないと思います。グリーン購入も色々な方面に広げて適用していこうと思います。また、地域に貢献できるような活動も会社として何か応援出来ないか考えていこうと思います。

次年度には新しい溶接ロボットを導入しようと考えています。この建築業界も色々な職種で人材不足が顕著になり、時間短縮や品質向上を目指して導入を決めました。エネルギーの効率UPになれば・・・とも考えています。

ea21の活動も8年目に入り定着したように感じます。来年度も目標値を下回るように更なる努力・協力を従業員にお願いし、協力会社様にも同様な対応をして頂くように、会社一丸となって持続可能な循環型社会の構築を目指していこうと思います。これからもよろしくお願い致します。

平成27年12月

株式会社 柏原鐵工所  
代表取締役社長 柏原正明

# 来年度に向けて

今年度の成績は前年度と同じような成績になっているという事で、及第点はあげられるかとは思いますが、あまり進歩がなかったのかなあとと思います。

前にも述べたように9項目中6項目で目標値を達成しています。達成できなかった項目も3項目で、これも昨年度と同じです。今年度の仕事量にもよりますが、ガソリンと軽油の使用量は、前年度より2tトラックが増えている割には減少していますのである程度のエコ活動の成果は出ていると思います。更なる効果が出るように効率に良い輸送計画を立て、運転者にも下調べをして目的地までの道順を調べてエコドライブ運転を徹底してほしいです。有害化学物質排出量は法令によって有害化学物質の含有量の多い塗料の使用を禁止しましたので減少するでしょう。グリーン購入は、事務用品や機械設備の備品などの購入（インターネットで購入するときはグリーン購入に適合しているかどうかを確認している）にも適用できないか考えていかなければなりません。

本年12月には“溶接ロボット”の導入を予定しています。これは熟練の溶接技術者の人材不足が懸念されており、現在の従業員の高齢化で仕事の効率の悪化の可能性があり、効率UPのためエネルギー効率が良くなる事（カタログを見ますと約5%の消費電力の削減出来るとありました。）も期待します。これによって生産性も上がり、より多くの物件が出来るようになればと思います。この他に地域の防災活動に協力出来る事があれば協力し、会社側にも提唱していきたいです。

来年度の目標値は5%の削減と書いていますが、会社の状況が変化していますので、今一度基準年を変更（基準年を今年度に変更の予定）したいと考えています。という事で目標値がどのようになるのか解りませんが、達成できるよう努力します。

何か疑問・質問・意見等ありましたら担当者まで申し出てください。来年度に活かせるようにしたいと思います。

ご一読頂きありがとうございました。

平成27年12月

ea21 担当者より